

2025 年度学校関係者評価委員会 議事録	2025 年 8 月 6 日
出席者 委員：土田淳一（白糠町教育委員会次長）、皆添英二（白糠町久遠塾塾長）、石塚学（㈱アクアジオテクノ代表取締役社長）、高橋千博（地熱エンジニアリング株式会社さく井部部長） 学校：井上校長、島田教務部長、小野事務部長	13：30～15：00 場所：白糠/Web 併用
添付資料 ・ 2025 年度自己評価集計結果表 ・ 修業年 1・2 年制併用の設立	
<p>1. 2025年度自己評価の説明</p> <p>2025 年度自己評価結果表の概要を説明し、自己評価結果表から抽出した重要な課題について説明した。</p> <p>校長：この会議では、2025 年度自己評価結果表の中で、評価点の低い「防災に対する整備」、「学生の募集」「学校の財務基盤」、について特にご意見をいただきたい。</p> <p>・ 防災について</p> <p>校長：防災については、8 月 6 日にカムチャツカ半島付近で起きた巨大地震により津波避難指示が発令され、寮に残っていた学生 1 名は自分の車で釧路空港に避難し、職員は白糠町指定の避難場所である 34m 標識まで徒歩で避難をした。避難状況としては、徒歩で避難していたのは学校職員のみであった。</p> <p>皆添委員：昨年度の指摘事項でもある「英語版の避難経路図の掲示」、「AED の訓練」、「天候による休講の連絡体制」、「天候による欠席の取扱い」についてお聞きしたい</p> <p>校長：英語版の避難経路図の掲示は JICA の外国人研修会もあり、作成して掲示済みである。AED の訓練は今期は実施していない。天候による休講の連絡体制は Line ワークスによる連絡体制が構築済みである。天候による欠席の取扱いは担任より学生に説明済みである。</p> <p>石塚委員：学校には寮や食堂があり、災害時に避難場所に使用できるのか</p> <p>校長：学校所在地は津波災害警戒区域であるので、津波以外の災害であれば避難場所として使用できる。津波避難時に学校付近で渋滞が発生した場合、学校の敷地を駐車場として使用し、避難者が徒歩避難することも考えられる。また、今回の津波避難で避難解除後に学校のトイレに駆け込んだ避難者が居たことから避難場所でのトイレの必要性を感じた。</p> <p>石塚委員：学校には水井戸はあるのか</p> <p>校長：水井戸はあるが、飲料として使用できるかは不明である。</p> <p>高橋委員：井戸の種類はどのような井戸なのか</p> <p>校長：酪農用の井戸として掘削したようである。</p> <p>高橋委員：井戸用カメラで計測をおこなうような授業に使用できるのではないかと思う。</p> <p>島田：中を確認したことは無いが、鋼管を用いた井戸ではなく、土管が埋め込んである。</p> <p>石塚委員：水井戸は人が生活するためには絶対必要であり、学校の地域の地下水の資料があるので学校に送るので確認してほしい。</p>	

校長：確認する。

・学生募集

皆添委員：進路が確定している高校生に説明しても遅いので、小学生ぐらいから説明していくことが必要ではないか

校長：これまでに小学生向けとして「白糠ふるさと未来塾」「釧路こども遊学館のジオフェスティバルへの出展」「釧路鶴野小学校で出前授業」を実施してきた。小学生の場合は効果が出るのに長い期間が必要であり、中学生向けの説明ができないか検討している。

高橋委員：修業年1年で就職するには一抹の不安があるのではないか

校長：留学生向けとは言え修業年2年制も検討している

高橋委員：掘削技術者は国内には数百人程度と人数が少なく、プレミア感を持ってもらうことが必要ではないか

石塚委員：さく井業界としても「魅力的な職場」「社会的貢献ができる」「命の水を確保する」などのコンセプトを用いて、カッコイイ職場であることを表明している。

校長：地熱などの資源開発を含めて、業界の重要性を説明し学生募集に繋げたい

・学校の財務基盤

校長：学校は13名の学生では採算が取れないので2年制を考えている

土田委員：学校の損益点となる学生数は20名程度ときいているが

校長：損益点となる学生数は40名程度で、1年制と2年制を併用することでこの人数にできるだけ早くなれるようにしたいと思っている。

・修業年1・2年制

石塚委員：外国人の受け入れは期待しているが、言葉の壁、英語版のパンフレットが必要である。

島田：専門学校に留学生として在留するには、日本語能力試験のN2（2級）以上に合格した者、または日本語教育機関等で1年以上の教育を受けたものであることが必要であり、ある程度の日本語能力はあると考えている。しかし、掘削用語は日本人であっても特殊な用語があり、専任の講師による教育を考えている。また、英語版のパンフレットは、在留許可者をターゲットとした英語版のパンフレットを作成しており、これを基に英語版パンフレットとホームページを制作したい。

高橋委員：外国人への周知が重要となると思う

島田：在留許可者用英語版パンフレットは、国内の日本語学校、JICAを通じて国外などに配布した。

校長：国内の日本語学校を取りまとめている団体が無かったことから、専門学校一覧表を入手し数百校にパンフレットを配布した。

高橋委員：留学生の管理が重要となると思う。

島田：専門学校の卒業生がその学科に関係する企業に採用されると在留許可がとりやすく、勤めていけば継続もしやすい。更に家族を呼び寄せることも可能で、将来は永住許可を得ることも可能となる。この要件は、大学卒業者と同じであり、2年でその条件を満たすことができる有効性がある。

高橋委員：留学生が行方不明になる実例がある

島田：専任の講師による管理と入学前から卒業後の有利性を説明したい。卒業後の有利性はパンフレットには書ききれないと思うので英語版のホームページを充実させたい。

・教育活動

皆添委員：自己評価表に遅刻や欠席が多いと記載されているが、何か対応をおこなっているのか

島田：昨年度と一昨年度は、遅刻や欠席が多かったが、今年度は大変少なくなったので、対応をおこなっていない。しかし、授業中に寝ている学生もあり、対応に苦慮している。

石塚委員：「井戸の設計や維持管理」の授業を取り入れるなどのカリキュラムを変更することはできるのか

島田：カリキュラムは掘削技術を網羅することと教育するための資料や講師が準備できるかを考慮して構築している。教育資料や講師を含めてご提案いただければ、カリキュラムの変更を考える。

以上